

格助詞と用法の対応

格助詞	用法	例文
が	主体	動きの主体 子どもたちが公園で遊ぶ。(意志動作の主体) 弟が女の子から花束をもらった。(受身的動作の主体) 雨が降る。(自然現象の主体) 洪水で橋が壊れる。(変化の主体) 田中が弟の成功を心から喜んだ。(心的活動の主体)
		状態の主体 このホテルには有名なレストランがある。(存在の主体) この子が専門書が読めるはずがない。(能力の主体) 君が悲しいときは、私も悲しい。(心的状態の主体) 今朝は空がとてもきれいだ。(性質の主体) このマークが進入禁止を表す。(関係の主体)
		同定関係の主体 あの眼鏡をかけた人が田中さんだ。
	対象	心的状態の対象 恩師の死が悲しい。
		能力の対象 この子は逆上がりができる。
		所有の対象 私には大きな夢がある。
を	対象	変化の対象 ハンマーで氷を砕いた。(形状変化の対象) 花を鉢から花壇に移した。(位置変化の対象) 植木を囲った。(状況変化の対象) 小説を書いた。(産出の対象)
		動作の対象 太鼓をたたく。(働きかけの対象) 市町村合併問題を議論する。(言語活動の対象)
		心的活動の対象 友人との約束をすっかり忘れていた。
	起点	移動の起点 昨日は8時に家を出た。
	経過域	空間的な経過域 川を泳いで渡った。
		時間的な経過域 お正月を実家で過ごした。
に	着点	移動の着点 子どもが学校に行く。(到達点) 糸くずが服につく。(接触点)
		変化の結果 信号が青に変わる。
	相手	動作の相手 隣の人に話しかける。
		授与の相手 おばあさんが孫に絵本をやる。
		受身的動作の相手 犯人が警察に捕まった。
	場所	基準としての相手 体格が大人にまさる。
存在の場所 机の上に本がある。		
起因・根拠	出現の場所 あごに髭が生える。	
	感情・感覚の起因 職員の内納な態度に腹を立てる。	
主体	継続的状態の起因 潮風に帆が揺れていた。	
	状態の主体 私には大きな夢がある。(所有の主体) この子に専門書が読めるはずがない。(能力の主体) 私には弟の成功が心からうれしい。(心的状態の主体)	
対象	動作の対象 親にさからう。	
	心的活動の対象 先輩にあこがれる。	
手段	内容物 新入生の顔は希望にあふれている。	
	付着物 全身が泥にまみれる。	

	時	時点	1時に事務所に来てください。(時名詞) 午前中に用事を済ませた。(期間名詞)
	領域	認識の成り立つ領域	私には、山本さんの意見は刺激的だった。
	目的	移動の目的	母が買い物に行く。
	役割	名目	お礼に手紙を書く。
	割合		1週間に2日は酒を飲んでいる。
へ	着点	移動の方向	船が港へ向かう。
で	場所	動きの場所	庭で犬が吠えている。
	手段	道具	ナイフでチーズを切る。
		方法	遠近法で図を描く。
		材料	千代紙で鶴を折る。
		構成要素	委員会は5人のメンバーで構成される。
		内容物	会場が人でいっぱいになる。
		付着物	服がホコリで汚れる。
		起因・根拠	変化の原因
	行動の理由		急用で家へ帰った。
	感情・感覚の起因		友人とのことで悩んでいる。
	判断の根拠	隣の部屋の人物がだれなのか、甲高い声でわかった。	
	主体	動きの主体	私と佐藤でその問題に取り組んだ。
	限界	範囲の上限	先着30名で締め切る。
領域	評価の成り立つ領域	富士山が日本でいちばん高い山だ。	
目的	動作の目的	観光で京都を訪れた。	
様態	動きの様態	裸足で歩く。	
から	起点	移動の起点	子どもたちが教室から出てきた。
		方向の起点	ここから富士山がよく見える。
		範囲の始点	本を10ページから読みはじめる。
		変化前の状態	信号が青から黄に変わる。
	主体	動きの主体	私から集合時間を連絡しておきます。
	起因・根拠	出来事の原因	たばこの火の不始末から火事になった。
		判断の根拠	隣の部屋の人物がだれなのか、甲高い声からわかった。
	経過域	空間的な経過域	虫は窓から出ていった。
手段	構成要素	国会は衆議院と参議院から成り立っている。	
より	起点	移動の起点	遠方より友来たる。
		方向の起点	これは東京タワーより撮影した富士山の写真である。
		範囲の始点	本を10ページより読みはじめる。
		変化前の状態	書類の提出期限が2月末より3月末に変更された。
まで	着点	範囲の終点	子どもが学校まで自転車を通う。
と	相手	共同動作の相手	友達と喫茶店でコーヒーを飲んだ。
		相互動作の相手	弟とけんかをする。
		基準としての相手	弟と趣味が違う。
	着点	変化の結果	氷が溶けて水となる。
内容			あの方は恩師と呼べる。